

健康♪外来ニュース

認知症の診断

No. 21 令和3年1月15日

認知症の周辺症状が改善
できれば、本人も家族も
ハッピーになれる！

脳の障害から直接生じた認知機能障害は回復が難しく**中核症状**と呼ばれています。一方、二次的に引き起こされる**周辺症状**(うつ状態、興奮・暴力、徘徊、不潔行為、不眠、妄想など)は、**行動・心理症状**(BPSD)とも呼ばれ、生活環境の調整、対応の工夫、対症的薬物療法などで改善できる可能性があります。周辺症状だけでも軽減できると、本人だけでなく介護者の悩みや負担が少なくなります。

・老化と認知症の「もの忘れ」の違いについては、「健康♪外来ニュースNo.5」をご覧ください。

・当院でも、認知機能検査、頭部CT検査などを受けていただけます。

認知症の診断について

日本では65歳以上の高齢者の約18%に認知症、約15%に軽度認知障害を認めます(2018推定)。

認知症(DSM-5基準、2013)とは、複雑性注意、遂行機能、学習性と記憶、言語、知覚・運動、社会的認知の6つの認知領域の1つ以上が障害されて、日常生活活動(ADL)に支障が出ているが、せん妄、うつ病などが無い状態をいいます。

軽度認知障害(MCI)は、認知障害はあるが、認知症に比べて手段的ADL(買物、薬や金銭の管理ができる)が保たれた状態です。年間10~30%が認知症へ進行するが、正常レベルに回復する例も年間10%程度認められるとされています。

認知症を診断するには、まず本人と家族からもの忘れ等の症状を聞き取ります。疑いがあれば、質問形式で**認知機能検査**(MMSEなど)を行います。①時間見当識、②場所見当識、③言葉の記銘、④計算、⑤言葉の遅延再生、⑥物品呼称、⑦即時記憶、⑧口頭指示、⑨読解、⑩文章構成、⑪視空間認知などを調べます。見当識とは状況判断力のことで、認知症が進むと時間→場所→人物の順に分らなくなります。

また、認知障害と診断された方の約10%が、いわゆる“**治療可能な認知症**”(甲状腺機能低下症、ビタミンB1・葉酸欠乏症、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍など)であるとされているので、念のために血液検査や頭部CT/MRI検査をして確認します。認知機能に影響する薬を服用していないか、精神疾患がないかにも注意を払います。

高齢者の運転免許更新時の認知症検査について

75歳以上の高齢運転者は、**時間見当識**(年月日、曜日、時刻を答える)、**手がかり再生**(16枚の絵を記憶して、何が描かれていたかを答える)、**時計描画**(時計の文字盤と針を描く)などの検査を受け、医師から認知症と診断されると免許停止になります(道交法)。75歳未満でも運転に不安を感じるなら、まず自身の認知機能を検査して、早めに対処しましょう。



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00~17:00(要予約)

担当：中嶋